

令和7年度 大阪府自主防災組織リーダー育成研修

## 実施報告書



共催 / 大阪府

大阪府内市町村防災対策協議会

一般財団法人日本防火・防災協会

後援 / 総務省消防庁

# 目次

1. 実施概要	P.1
2. カリキュラム	P.2
3. 講義概要	P.4
(1) 地域災害リスク・特徴・事例について	
・三島ブロック ・中河内ブロック ・豊能ブロック ・南河内ブロック	
・北河内ブロック ・泉北ブロック ・泉南ブロック ・大阪市ブロック	
(2) 避難所運営・要配慮者支援（ワークショップ）	
(3) 男女共同参画・地区防災計画・組織の活性化（ワークショップ）	
(4) 自主防災組織の活動促進について	
4. アンケート結果	P.8
5. 研修資料	P.14
(1) 地域災害リスク・特徴・事例について	
・三島ブロック ・中河内ブロック ・豊能ブロック ・南河内ブロック	
・北河内ブロック ・泉北ブロック ・泉南ブロック ・大阪市ブロック	
(2) 避難所運営・要配慮者支援（ワークショップ）	
(3) 男女共同参画・地区防災計画・組織の活性化（ワークショップ）	
(4) 自主防災組織の活動促進について	

## 令和7年度自主防災組織リーダー育成研修 実施概要

### 目的

自主防災組織の充実強化を図るため、府内の自主防災組織等を対象として、組織の中核を担う人材の育成及び資質向上を図るためのリーダー育成研修を実施する。

### 日時・場所

回	日時	場所	参加人数	Web 聴講人数
1	10月9日(木) 13:00 ~ 17:10	三島府民センター 4階第1会議室 (茨木市中穂積 1-3-43)	54名	6名
2	10月11日(土) 13:00 ~ 17:10	八尾市役所・大会議室 (八尾市本町 1-1-1)	44名	7名
3	10月15日(水) 12:45 ~ 16:55	豊能府民センター・5階大会議室 (池田市城南 1-1-1)	58名	
4	10月29日(水) 13:00 ~ 17:10	南河内府民センター・講堂 (富田林市寿町 2-6-1)	60名	
5	10月31日(金) 13:00 ~ 17:10	北河内府民センター・大会議室 (枚方市岡東町 19-1 ステーションヒル枚方 オフィスB)	38名	
6	11月29日(土) 13:00 ~ 17:10	和泉市役所別館 3階会議室 (和泉市府中町 2-7-5)	62名	
7	12月5日(金) 13:00 ~ 17:00	泉南府民センター 1階多目的室 (岸和田市野田町 3-13-2)	47名	4名
8	12月6日(土) 13:00 ~ 17:10	津波高潮ステーション・研修室 (大阪市西区江之子島 2-1-64)	33名	

※10/9、10/11、12/5 の実施会場は Web 配信も実施 (計413名)…Web 聴講含む

### 対象者

自主防災組織リーダー、地域防災活動に積極的な意欲を有する方など、市町村危機管理（防災）担当課等が推薦する者。

### 共 催

大阪府  
大阪府内市町村防災対策協議会  
一般財団法人 日本防火・防災協会

### 後 援

総務省消防庁

## 令和7年度自主防災組織リーダー育成研修 カリキュラム

(10月9日実施：三島地域)

時間	内容	講師
13:00~13:05	開会・オリエンテーション	大阪府 危機管理室防災企画課
13:05~13:30	地域の災害リスク・特徴・事例	大阪府 茨木土木事務所
13:30~15:05	避難所運営・要配慮者支援・ワークショップ	NPO 法人大阪府防災士会
15:15~16:50	男女共同参画・地区防災計画 ・組織の活性化・ワークショップ	(一財) 関西情報センター
16:55~17:10	自主防災組織の活動促進	大阪府 危機管理室防災企画課

(10月11日実施中河内地域)

時間	内容	講師
13:00~13:05	開会・オリエンテーション	大阪府 危機管理室防災企画課
13:05~13:30	地域の災害リスク・特徴・事例	大阪府 八尾木事務所
13:30~15:05	避難所運営・要配慮者支援・ワークショップ	NPO 法人大阪府防災士会
15:15~16:50	男女共同参画・地区防災計画 ・組織の活性化・ワークショップ	NPO 法人 とれじゃーBOX
16:55~17:10	自主防災組織の活動促進	大阪府 危機管理室防災企画課

(10月15日実施：豊能地域)

時間	内容	講師
12:45~12:50	開会・オリエンテーション	大阪府 危機管理室防災企画課
12:50~13:15	地域の災害リスク・特徴・事例	大阪府 池田土木事務所
13:15~14:50	避難所運営・要配慮者支援・ワークショップ	NPO 法人大阪府防災士会
15:00~16:35	男女共同参画・地区防災計画 ・組織の活性化・ワークショップ	(一財) 関西情報センター
16:40~16:55	自主防災組織の活動促進	大阪府 危機管理室防災企画課

(10月29日実施：南河内地域)

時間	内容	講師
13:00~13:05	開会・オリエンテーション	大阪府 危機管理室防災企画課
13:05~13:30	地域の災害リスク・特徴・事例	大阪府 富田林土木事務所
13:30~15:05	避難所運営・要配慮者支援・ワークショップ	NPO 法人大阪府防災士会
15:15~16:50	男女共同参画・地区防災計画 ・組織の活性化・ワークショップ	NPO 法人 とれじゃーBOX
16:55~17:10	自主防災組織の活動促進	大阪府 危機管理室防災企画課

(10月31日実施：北河内地域)

時間	内容	講師
13:00~13:05	開会・オリエンテーション	大阪府 危機管理室防災企画課
13:05~13:30	地域の災害リスク・特徴・事例	大阪府 枚方土木事務所
13:30~15:05	避難所運営・要配慮者支援・ワークショップ	NPO 法人大阪府防災士会
15:15~16:50	男女共同参画・地区防災計画 ・組織の活性化・ワークショップ	NPO 法人 とれじゃーBOX
16:55~17:10	自主防災組織の活動促進	大阪府 危機管理室防災企画課

(11月29日実施：泉北地域)

時間	内容	講師
13:00~13:05	開会・オリエンテーション	大阪府 危機管理室防災企画課
13:05~13:30	地域の災害リスク・特徴・事例	大阪府 鳳土木事務所
13:30~15:05	避難所運営・要配慮者支援・ワークショップ	NPO 法人大阪府防災士会
15:15~16:50	男女共同参画・地区防災計画 ・組織の活性化・ワークショップ	NPO 法人 とれじゃーBOX
16:55~17:10	自主防災組織の活動促進	大阪府 危機管理室防災企画課

(12月5日実施：泉南地域)

時間	内容	講師
13:00~13:05	開会・オリエンテーション	大阪府 危機管理室防災企画課
13:05~13:25	地域の災害リスク・特徴・事例	大阪府 岸和田土木事務所
13:25~15:00	避難所運営・要配慮者支援・ワークショップ	NPO 法人大阪府防災士会
15:10~16:45	男女共同参画・地区防災計画 ・組織の活性化・ワークショップ	NPO 法人 とれじゃーBOX
16:50~17:00	自主防災組織の活動促進	大阪府 危機管理室防災企画課

(12月6日実施：大阪市)

時間	内容	講師
13:00~13:05	開会・オリエンテーション	大阪府 危機管理室防災企画課
13:05~13:30	地域の災害リスク・特徴・事例	大阪府 西大阪治水事務所
13:30~15:05	避難所運営・要配慮者支援・ワークショップ	NPO 法人大阪府防災士会
15:15~16:50	男女共同参画・地区防災計画 ・組織の活性化・ワークショップ	NPO 法人 とれじゃーBOX
16:55~17:10	自主防災組織の活動促進	大阪府 危機管理室防災企画課

# 令和7年度自主防災組織リーダー育成研修 講義概要

## 1. 地域の災害リスク・特徴・事例

大阪府内8つの地域（豊能、三島、北河内、中河内、南河内、泉北、泉南、大阪市内）ごとにおける地域概要や地形的特徴の紹介、風水害や地震の仕組み、災害別の類型に応じた地域に生じるリスクや特徴、実際の被災事例などが示された。また災害リスクの把握方法として、ハザードマップや河川水位情報など防災に役立つ情報等が紹介され、大阪府内の様々な防災情報を入手することができるツールとして、「大阪防災アプリ」の紹介も行われた。



## 2. 避難所運営・要配慮者支援（ワークショップ）

各ブロックの担当講師により多様な視点から説明が行われた。例えば、自宅から安全に避難するためにも、家具の固定や滑り止めをしっかりと行い、不必要な靴は玄関に出さない等、家の安全対策について説明がされた。また、災害時に必要となる物は季節や個人で異なるため、自らに合った備えをすることや、ローリングストック、分散備蓄の方法も説明された。



他にも、災害時における人間の心の働きとして正常性バイアスの説明があり、この働きの度が過ぎてしまうと、非常事態の際に避難などの対応が遅れてしまうという危険性を大勢と共有した。また、乳幼児や高齢者など、災害時に配慮が必要な方への避難所における支援対応や、女性の視点も含む多様なニーズを取り入れた避難所運営、避難所の機能役割について説明が行われた。今までの



被災地の避難所状況にも関連して、発災後、速やかに避難所の「TKB（トイレ、キッチン、ベッド）」に係る環境整備を行うことが住民の健康を維持する上で必要であるとの説明があり、避難所の国際基準としての「スフィア基準」に関する説明も行われた。特に避難所におけるトイレ環境については、不衛生であると感染症の懸念や、使用を控え、排泄を我慢することが体調不良や災

害関連死につながる恐れにもなるため、清潔な環境を維持できるようトイレの使用ルール等に留意することについて説明があった。さらに、災害時における避難行動要支援者支援に関して、避難行動要支援者名簿への登録や個別避難計画の作成等についても説明があり、全体を通して地域で助け合う支援の仕組みの大切さについて確認が行われた。

続いて、「避難所・避難行動要支援者」をテーマに、クロスロードゲームによるグループワークが行われた。この取り組みでは、様々な意見があること、そして、それら他の方の意見を幅広く聞き入れることが重要であるとの説明がされた。クロスロードゲームは4～6人1組を基本とした班に分かれ、はじめに簡単な自己紹介が行われた後、複数のお題から話合う内容を決めて、受講者の間で意見交換が行われた。



クロスロードゲームでは、避難所における備蓄食配布に関して、配布する理由として、「避難してこられた方に精神的に落ち着いていただく」、「子ども・高齢者など配慮が必要な人から配る」、「今後の活動の為にエネルギーが必要」とする意見があり、一方、配布しないとする理由では、「配布の優先順位を考える必要がある」、「混乱を避ける」、「今後何人くるか分からない」等、様々な意見が出された。グループごとに話し合われた意見について全体発表も行われ、同じお題でも班ごとに異なった回答が発表されることで、重要視したポイントやその理由等、多様な考え方が共有される場となった。

### 3. 男女共同参画・地区防災計画・組織の活性化（ワークショップ）

世界各国と比較した際、ジェンダー・ギャップ指数を示した上で、日本は女性の政治参加と経済参画の割合が低いとの説明があり、多様な視点を取り入れる際のひとつの目標として、意思決定の場に女性が3割以上参画することの意義とその根拠が説明された。地域防災力向上のためには、年齢や性別、立場が異なる住民の多様な視点を取り入れる大切さを確認した。



地区防災計画について、平成25年に災害対策基本法に規定されたことが示され、行政が作成する地域防災計画との関係から、地域住民が主体となって作成する計画である旨の説明があった。地区防災計画の特徴として、①住民からボトムアップ型で作成される計画であること、②住民主役の作成プロセスになっていること、③計画の内容が実践的であることが示され、自分たちの地域を自分たちで守る防災意識向上にも資する制度であるとの話があった。また計画作成にあっては、専門家から意見を貰ったり、橋渡し役としての地区防災計画コーディネータに協力してもらったりする方法についても説明があった。参考となる取組事例として、



堺市中区深井西校区における防災委員会の事例や、同中区東深井校区における PDCA サイクルの事例、美原区黒山校区地区における要配慮者の安否確認体制の構築事例について紹介があった。

男女共同参画に係る観点からワールドカフェスタイルによるワークショップが行われ、班のメンバーを入れ替えつつ、雑談による意見交換と情報共有が行われた。最終的に、男女共同参

画の視点から、地域であつたら楽しいと思う取組みについて班ごとにアイデアを出し合い、参加者全員で投票を行った。「ペット家族用のテントを自分で用意しておく」、「子どもや若い人に参加してもらえよう学校の授業を利用させてもらう」、「カフェを利用した女性の集まりやすい場を作る(ふれあい喫茶)」、「食料班に男性を参入」、「お祭り・イベントを通じた顔の見える関係づくり」、「避難所の運営(男女・外国人)を共に考える」、「防災訓練で炊き出しをする」、「ゲーム感覚で訓練を行い若い世代(女性)をとり込む」等、様々な意見が出された。

また、自主防災組織リーダーの心得として、最新の防災知識・情報を得ること、笑顔を大切に、まじめな雑談といわれるコミュニケーションを行うこと、また地域防災活動は一人ではできないため、仲間の意見を尊重し、信頼できるセカンドを作ること等、自主防災組織の活性化に関するポイントについて説明があった。



#### 4. 自主防災組織の活動促進について

自主防災組織の活動促進を図るため、大阪府が令和 6 年 2 月、自主防災組織の取組事例集と PR 動画及び活用手引集を作成したことの紹介があった。事例集には、加入者を増やしたいなど、5 つの課題ごとに、計 15 個の好事例が掲載されていること、PR 動画については、組織への加入を呼びかける内容であり、地域のお祭り等のイベントで活用してほしいとの話があった。

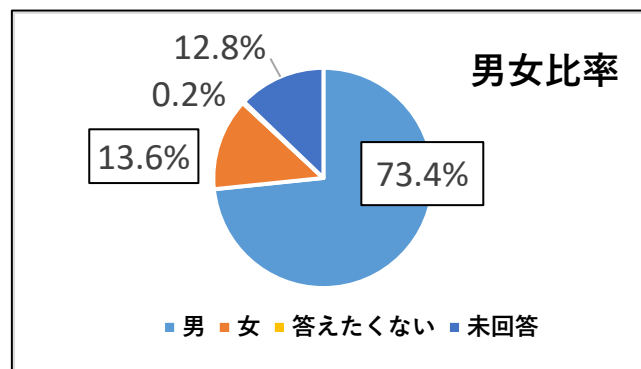
他にも、活動に役立つ資料として、総務省消防庁が発行する「自主防災組織の手引」や内閣府男女共同参画局が発行する「女性が力を発揮するこれからの地域防災-ノウハウ・活動事例集-」等の紹介も行われた。

最後に、大阪府内にある様々な防災学習施設についての紹介も行われ、小さな子に防災について興味を持ってもらう場合やコミュニティで防災イベントを実施する際に活用を検討してほしいとの説明がされた。

## 令和7年度自主防災組織リーダー育成研修 受講者アンケート結果

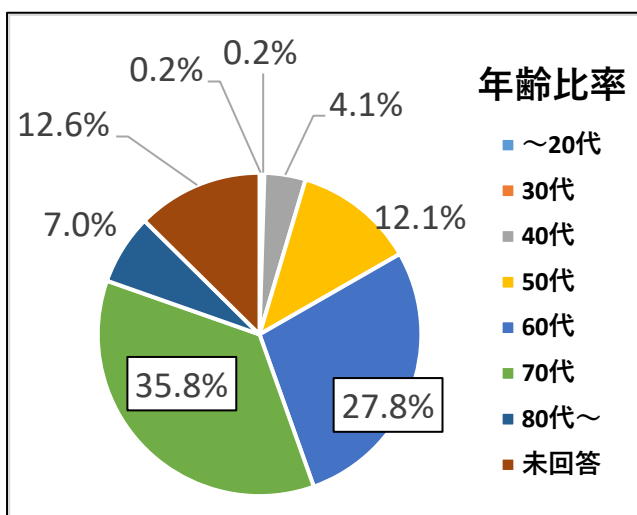
### 1. 性別

性別	合計	男女比率
男	303	73.4%
女	56	13.6%
その他	0	0.0%
答えたくない	1	0.2%
未回答	53	12.8%
合計	413	



### 2. 年齢

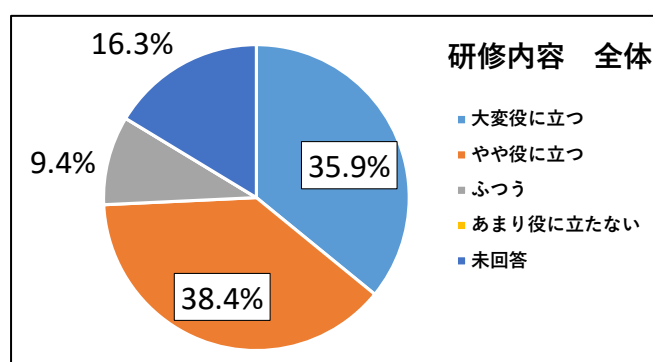
年齢	合計	年齢比率
-20代	1	0.2%
30代	1	0.2%
40代	17	4.1%
50代	50	12.1%
60代	115	27.8%
70代	148	35.8%
80代-	29	7.0%
未回答	52	12.6%
合計	413	



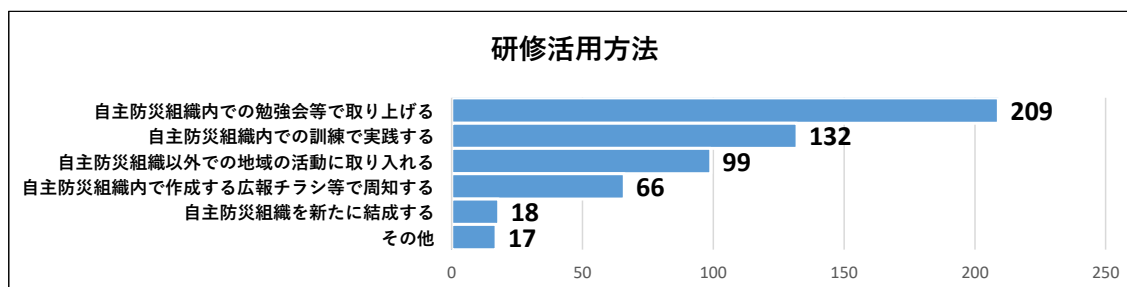
### 3. 研修内容

#### (1) 今後の活動に役立つと思うか

研修内容全体	合計	比率
大変役に立つ	145	35.9%
やや役に立つ	155	38.4%
ふつう	38	9.4%
あまり役に立たない	0	0.0%
未回答	66	16.3%
合計	404	

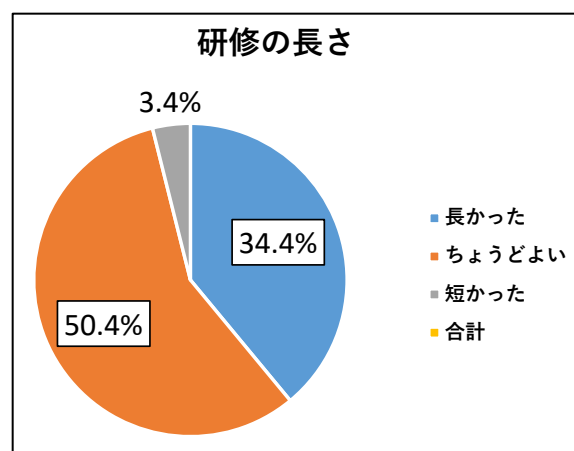


## (2) 学んだ内容をどのように活かすか (複数回答)



## (3) 本日の研修の長さはどうだったか

研修内容	合計	比率
全体		
長かった	140	34.4%
ちょうどよい	205	50.4%
短かった	14	3.4%
合計	359	



## (4) 講義内容について良かった点や改善点等のご意見 (主な内容のまとめ)

### <良かった点>

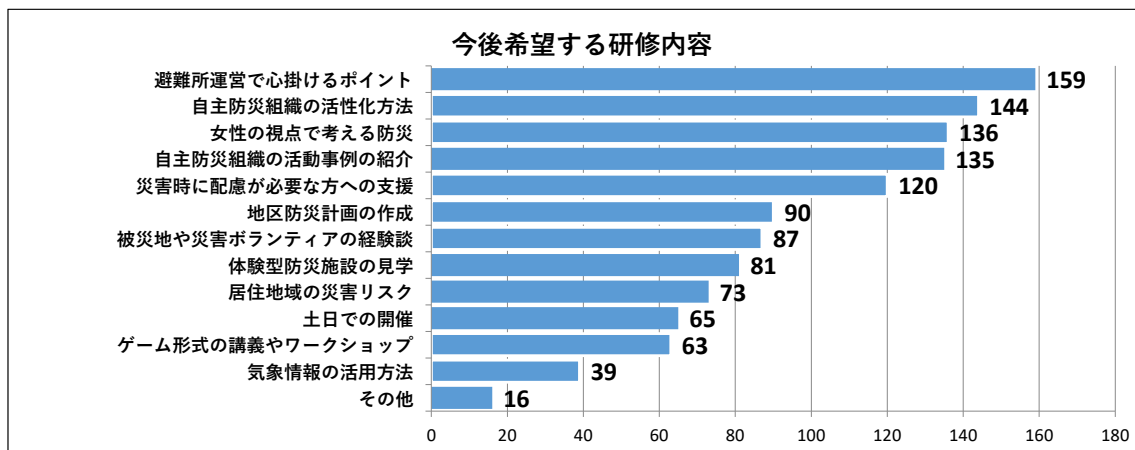
- ・ワークショップ形式が良かった (意見交換・グループ討論が有意義)。
- ・他地域の方と交流できて良かった。
- ・実践感がありよかった。
- ・色々な人の意見が聞けたので考え方の視野が広がった。
- ・資料に基づいた説明が分かりやすかった。
- ・地域防災計画、地区防災計画の違いなど新たな知識を得ることができた。
- ・事例紹介等が参考になった。
- ・声の大きなはっきりした発音の方々の講演でよかった。
- ・女性講師の話が良かった (女性目線の防災の重要性を感じた)。
- ・ミニ講義がたくさんという形がよかった。集中が切れなかった。

### <改善点等>

- ・研修時間が長すぎる。2 時間程度でまとめてほしい。
- ・ワークショップの時間が短い。
- ・ワークショップの説明が分かりづらい。

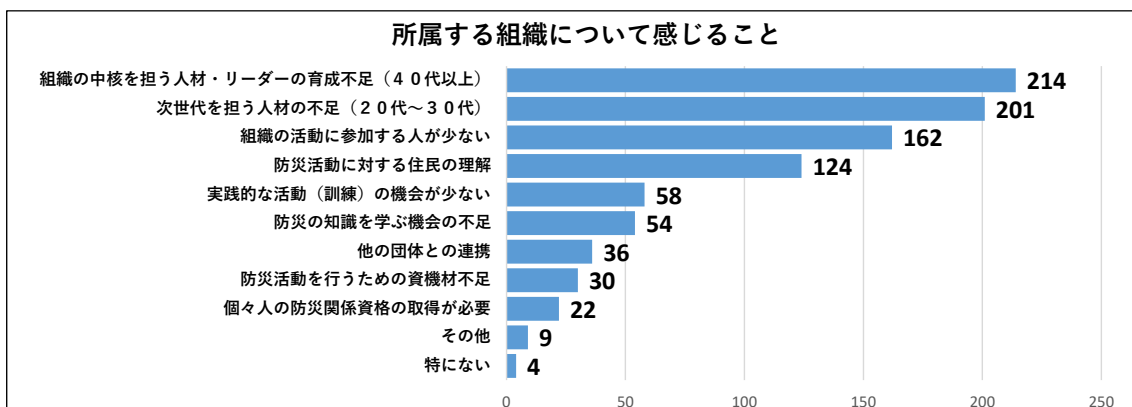
- ・進行が速くて、理解できない点が多かった。
- ・資料をカラー化、PDF 配布希望。
- ・概論では役に立たない。実践的な避難所運営計画や具体事例を出してほしい。
- ・一般論や進んだ地区の事例では現状とかけ離れている。実状を把握してほしい。
- ・研修項目が多すぎて内容が薄い。
- ・Web 聴講の音声不良や資料印刷不備。
- ・実習がしたい。
- ・開催日時の改善（日曜開催、開始時間を 13:00 集合・13:15 開始）
- ・グループワークで名札があれば良かった。
- ・避難所運営についてもう少し詳しく説明してほしい。
- ・大阪府は研修日程を早く決定・周知してほしい。
- ・ゲームより事例説明をもっと聞きたい。

#### (5) 今後希望する内容（複数回答）

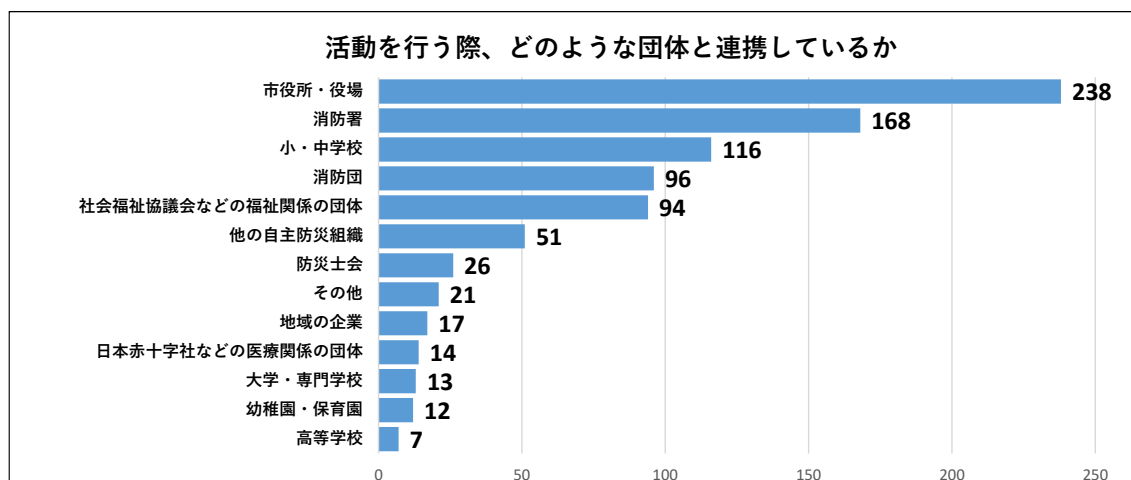


### 4. 自主防災組織について

#### (1) 所属する組織について日頃感じること（複数回答）



## (2) 防災活動での他機関との連携状況（複数回答）



## (3) 自主防災組織の人材確保のためにはどのような取り組みが必要だと思いますか

### (主な内容のまとめ)

- ・取組んでいる内容などの広報や情報発信の強化が必要(自治体、地域自身)。
- ・地区の実情に応じた組織づくりに自治体が積極的に取り組む。
- ・行政がCMやSNSで自主防災組織の重要性を周知する。学校や地域の企業に声をかける。
- ・若い人の参加を促すためのパンフレット、イベント・祭り等。
- ・地域でのコミュニケーションを更に深める必要がある。
- ・子どもが参加できるイベント。子供会活動とコラボできるイベント。
- ・自主防災の重要性を認識してもらおう啓発活動。
- ・学校での防災教育。
- ・小中学校等の保護者が参加しやすい内容の勉強会や訓練。
- ・防災士の育成や資格取得の支援。
- ・自治体や各団体との連携。
- ・地域住民の意識改革が必要。
- ・女性の参加を促進。
- ・共通の話題を探して共有し、相互理解と信頼感を深めたいうで誘う。
- ・堅苦しくない楽しい企画を実施する。
- ・毎年一定の日に防災訓練ができるような組織づくり。
- ・自治会活動から切り離れた組織とすることも考える。
- ・防災組織の運営支援者の事前登録。
- ・地域住民が集まれるイベントなどで、災害時、自分なら何ができるか、ボランティア可能なことをバンク登録してもらおう。
- ・防災訓練の時に炊き出しなどの実演をする。

- ・連絡網、情報交換のデジタル化。
- ・語り部、経験した人から直接話を聞き、最新の情報により危機感をもってもらう。
- ・参加することのメリット（手当）等が必要。
- ・自治会役員などの兼務でなく、数年で交代しないような防災会専門メンバーの存在。

#### （４）日々活動の中で悩んでいることはありますか（主な内容のまとめ）

- ・地元住民、町会組織が弱体化してきているため、行政の後方支援がもっと必要。
- ・行政がどのくらいのことが出来るのかはっきりと分からない中、どのくらいの準備が必要なのか非常に想定しづらい。
- ・それぞれの組織に特定の人重複して役員を兼ねているので負担が大きい。
- ・自主防の役員の高齢化と活動役員の不足。
- ・防災訓練への参加率が低いこと。
- ・地区の中での防災に関する財源の捻出。
- ・自主防災の考え方や活動が浸透しない。
- ・若手が関心を持ってくれない。
- ・周りの人の関心が少ない。
- ・興味を持って人達の見出し方が分からない。
- ・人材不足。若い世代の人材確保。
- ・自主防災組織メンバーの意識に格差がある。
- ・マンション防災は特殊なため、それについて学ぶ場を設けてほしい。
- ・ワンルームマンションが多数あり、回覧を受け取らない住民が多数いる。
- ・地域を歩いてみて、狭い道路、高いブロック塀等が多い。避難が困難な場所が少なくない。
- ・時代に合わせた方法で、世代間ギャップを埋めながら、交流の場を持つことが難しい。
- ・各々が仕事や他の地域の役割を持っているので、自主防の活動に割ける時間が少なく、思うような活動が進んでいない。
- ・重度障害者、自宅療養者の避難行動計画作成における、病院・デイサービスとの情報共有連携が進まない。
- ・要支援者への対応とその方々（家族）のプライバシーの配慮。
- ・自主防災会として定期的な訓練・研修の開催方法やアイデアが少ないこと。
- ・避難所運営マニュアルの例がほしい。
- ・防災訓練を開催したいが集客や内容を詰めるのに苦労している。
- ・引継ぎがうまくいかない。
- ・活動がルーチン化してしまっている。
- ・地域に外国の方が多数おられ、参加を促す方法に苦慮している。
- ・安否確認のための移動が大変。LINE 等を使いたいが、スマホを持っていない人も多い。
- ・地区防災計画を未だ作成していないので甚大災害が発生した場合の対応が不安。